

修士論文（要旨）

2013年1月

国際刑事裁判所の安保理付託における非協力への対応

指導 滝澤 美佐子 教授

国際学研究科

国際協力専攻

210J1053

大越 真木

## 目次

序章	1
第1章 安保理付託における非締約国の協力及び非協力への対応の法的構造	5
第1節 安保理付託	6
第2節 安保理付託における非締約国の協力義務	9
第3節 安保理付託における非締約国の非協力への対応	12
第2章 ダルフールの事態	16
第1節 事態の背景	16
第2節 安保理の対応と ICC への付託	18
第3節 安保理決議 1593	20
第4節 付託後のスーダン政府の対応	23
第3章 安保理付託における非締約国の非協力への対応	29
第1節 非協力の認定と報告	30
第2節 締約国会議による非協力への対応	31
第3節 安保理による非協力への対応	34
終章	38
参考文献	41

国際刑事裁判所（以下、ICC）は、多数国間条約であるローマ規程に基づき設立された、初の常設国際刑事裁判所である。ICCは国際社会全体の関心事である最も重大な国際犯罪について責任を有する者に対し、刑事裁判権を行使することにより不処罰の文化に終止符打つことを目的としており、集団殺害犯罪、人道に対する犯罪、戦争犯罪、及び侵略犯罪について管轄権を有する。現在121か国がローマ規程締約国となっており、2002年の設立以来、ICCはこれまでに7ヶ国の事態における16の事件について捜査又は訴追を行っている。これら7つの事態のうち、スーダン・ダルフル及びリビアの事態は、国連安保理が国連憲章第七章下の決議に基づき、ICC検察官へ事態を付託し捜査が開始された事例である。

安保理によるICCへの事態の付託は、ローマ規程が定めるトリガー・メカニズムと呼ばれる三つの管轄権の発動条件の一つである。他のトリガー・メカニズムは純粋にローマ規程という単一の多数国間条約の枠組みの中で行われるのに対し、安保理付託は国際条約としてより普遍性の高い国連憲章に基づく措置の一貫として行われ、ローマ規程と国連憲章という二つの条約を法的根拠とする。

本稿の課題は、以上の様なローマ規程と国連憲章という二つの条約を法的根拠とする安保理付託の法的特異性に由来する、法執行システムとしての可能性と問題点を検証することである。

安保理付託は、国連憲章に基づく安保理の決定の拘束力により、ローマ規程非締約国における事態についてもICCの管轄権行使を可能とし、全ての国連加盟国に対しICCへの協力を義務付け、国家の非協力に対しては国連憲章第七章下の強制措置をもって対応することもできる、強力な法的構造を有している。しかしここで問題となるのは、安保理付託はICCの管轄権を受諾していないローマ規程非締約国の事態をも強制的にICCへ付託することが可能であるからこそ、必要に応じて安保理が国連憲章に基づく権限を行使しなければ、ICCによる捜査及び訴追の継続が非常に困難な状況を招く危険性もあることである。つまり安保理付託は、強力な法執行システムとして機能しうる可能性と共に、安保理の協力を伴わなければ実効性の低い決定となる可能性をも含んでいる。（第1章）

この問題点を顕著に現わしているのが、初の安保理付託の事例であるスーダン・ダルフルの事態である。ローマ規程非締約国であるスーダンは、ICCへの付託を決定した安保理決議1593により、ICCへの協力を義務付けられている。しかし、スーダン政府はICCの管轄権行使を認めず、被疑者の引渡を拒否しており、捜査及び訴追の実施に重大な影響を及ぼしている。2010年にICCは安保理に対しスーダン政府の非協力を報告し、安保理として逮捕状執行に必要な措置を講ずるよう要請した。しかし、安保理は未だスーダンの非協力に対する実効的な対策を採るに至っていない。（第2章）

ローマ規程締約国会議（以下、ASP）及び安保理のいずれも、ICCからの報告を受け国家の非協力に対応する権限を与えられている。しかし非締約国に対しては、ローマ規程非締約国を拘束する決定を行う権限を持たないASPの影響力には限界があり、安保理による対応が必要となる可能性が高い。安保理が国家の非協力に対しどの様な対応を取るかは、安保理理事国の構成、政治的環境、特に安保理常任理事国の利害関係の影響を受ける。しかし、ICCによる一連の司法活動において必要な措置を講ずる安保理及び国連加盟国全体のコミットメントが伴わなければ、ローマ規程非締約国を対象とした捜査及び訴追の実現

は困難である。そして実効性の低い条件での付託の決定は、安保理付託のシステムのみならず、ICCによる司法活動全般をも形骸化させる危険性があることを、スーダンの事例は示していると思われる。(第3章)。

今後、安保理とICCの協力により実行を積み重ねていくことができれば、強力な法執行制度としての安保理付託システムを構築できる可能性がある。その一方で、安保理のコミットメントが伴わない状況でのICCへの付託は、国連とICCの権威及び信頼性を傷つけ、不処罰に対する国際社会の戦いを弱める危険性を含んでいる。安保理付託が有効なシステムとして機能するためには、ICCへの付託は一連の司法活動において必要な措置を講ずる安保理のコミットメントを伴って決定されなければならない。

主要参考文献等

〈日本語文献〉

村井伸行 「国際刑事裁判所（ICC）によるバシール・スーダン大統領の逮捕状の発布および逮捕・引渡請求の送付に関する法的検討」 『外務省調査月報』、 2009年。  
村瀬信也、洪恵子 共編 『国際刑事裁判所 最も重大な国際犯罪を裁く』 東信堂、 2008年。

〈外国語文献〉

Bellelli, Roberto ed., *International Criminal Justice-Law and Practice from the Rome Statute to Its Review*, Farnham: Ashgate Publishing Limited, 2010.

Cassese, Antonio, ed., *The Oxford Companion to International Criminal Justice*, Oxford: Oxford University Press 2009.

Cassese, Antonio, Gaeta, Paola and Jones, John R. W. D. eds., *The Rome Statute of the International Criminal Court: A Commentary*, Oxford: Oxford University Press, 2002.

Condorelli, Luigi and Ciampi, Annalisa, “Comments on the Security Council Referral of the Situation in Darfur to the ICC”, *Journal of International Criminal Justice*, 3 (2005), pp. 590-599.

De Wet, Erika, *The Chapter VII Powers of the United Nations Security Council*, Oxford/Portland Oregon: Hart Publishing, 2004.

Kastner, Philipp, *International Criminal Justice in bello?-The ICC between Law and Politics in Darfur and Northern Uganda*, Leiden/Boston: Martinus Nijhoff Publishers, 2012.

Kaufman, Zachary D. “Justice in Jeopardy: Accountability for the Darfur Atrocities”, *Criminal Law Forum*, (2005) 16, pp. 343-360.

Mendes, Errol P., *Peace and Justice at the International Criminal Court-A Court of Last Resort*, Cheltenham/Northampton: Edward Elgar Publishing Limited, 2010.

Mistry, Hemi and Verduzco, Deborah Ruiz, *The UN Security Council and the International Criminal Court*, Ramsgate: Chatham House, 16 March 2012.

Reisman, W. Michael, “On Paying the Piper: Financial Responsibility for Security Council Referrals to the International Criminal Court”, *The American Journal of International Law*, Vol.99: 615, pp.615-617.

Schabas, William A., *An Introduction to the International Criminal Court-Fourth Edition*, Cambridge: Cambridge University Press, 2011.

Schabas, William A., *The International Criminal Court: A Commentary on the Rome Statute*, Oxford: Oxford University Press, 2010.

Schiff, Benjamin N., *Building the International Criminal Court*, Cambridge: Cambridge University Press, 2008.

Stahn, Carsten and El Zeidy, Mohamed, eds., *The International Criminal Court and Complementarity – From Theory to Practice*, Cambridge: Cambridge University Press, 2011.